

無形文化財の保存・活用に関する調査研究 (①無01-07-2/5)

目 的

わが国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承実態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

また、無形文化遺産分野についての国際的研究交流として、アジア地域を中心とした諸外国の関係機関との具体的交流を推進するための協議を行う。

成 果

1 無形文化財、文化財保存技術の伝承研究

文化財保護委員会が作成した音声資料について調査を行い、上方寄席囃子の演奏家林家トミの記録について、第2回無形文化遺産部公開学術講座で発表した。

東京都在住の個人が所有する鼓胴について調査を行った。この鼓胴は、雅楽鼓胴から能楽鼓胴へ移行する過渡期の作例と考えられるが、鼓胴の表面に部分的に平蒔絵が施されており、能役者の金剛新六が所有したと伝えられている。限りなく能楽の鼓胴に近づいた作例と位置づけ、『鍔仙』に発表した。また、熊本県八代藩、山口県長州藩、愛媛県村上水軍博物館などが所収する龍笛・能管について調査を行った。村上水軍博物館所有の能管についてはX線撮影も行った結果、龍笛と能管の中間的な形状をしていることが判明した。管楽器の変遷をうかがう資料として大きな意味を持つ調査となった。

奈良県生駒市宝山寺、及び財団法人観世文庫が所蔵する世阿弥自筆能本について調査を行い、世阿弥の作曲法、記譜法について考察をした。成果は『無形文化遺産研究報告』で公表した。

無形文化遺産部所蔵の音声資料、昭和期の歌舞伎写真を整理し、所蔵一覧等を『無形文化遺産研究報告』に概説した。また、長く雑誌『演劇界』のグラビアを担当していた写真家梅村豊氏(1923-2007)撮影の写真およびネガの寄贈を受け、その整理を開始した。

人形浄瑠璃文楽芸員重要無形文化財保持者吉田簗助氏、人形浄瑠璃文楽囃子方望月太明蔵社中藤舎秀左久氏、同社中望月太明吉氏から聞き取り調査を行い、『無形文化遺産研究報告』で公表した。

工芸技術に関しては、葛布製造の現状、珉平焼等の「土型」について調査研究を行い、それぞれ『無形文化遺産研究報告』で公表した。

2 無形文化財記録作成事業

① 近年の伝承に変化が著しい宝生流と喜多流の謡曲について、昨年度にひきつづき、流儀の最長老今井泰男師による番謡、近藤乾之助師ほかによる番謡、喜多六平太師による番謡の音声記録を行った。

「百万」「鶉飼」「鞍馬天狗」「葵上」「融」「花筐」「半蔀」「邯鄲」「野宮」「関寺小町」「絃上」「井筒」「歌占」「海人」「楊貴妃」「高野物狂」「三輪」「芭蕉」「満仲」「高砂」「熊野」「忠度」「船弁慶」(以上今井泰男 23曲 収録順)

「定家」「木賊」(以上近藤乾之助)

「野宮」「蟬丸」「高砂」「鞍馬天狗」(以上喜多六平太)

② 連続口演の機会が激減している講談について、宝井馬琴師と一龍齋貞水師による実演記録を作成した。

『三方ヶ原軍記』発端・『八丈配所の月』・『鎌倉見聞誌』(宝井馬琴)

『仙石騒動』仙石左京江戸下り・主君毒殺・生野の銀山・小倉修理(一龍齋貞水)

『緑林五漢録』霧太郎天狗の面・霧太郎と鼠小僧の再会・天狗小僧霧太郎の最期・大団円(一龍齋貞水)

3 公開学術講座の開催

12月12日、大阪文楽劇場小ホールにおいて「上方寄席囃子 林家トミの記録—文化財保護委員会作成の録音資料をめぐって—」と題して第2回無形文化遺産部公開学術講座を行った。林家トミ師が記録作成等の措置を講ずべき無形文化財「上方寄席下座音楽」の関係技芸者に指名されたのは昭和37年であった。文化庁の前身である文化財保護委員会が昭和39年度に作成した林家トミ師の記録は、これまで録音の存在すら知られていなかった演目を含む貴重なものである。今回の講座では、当研究所で作成した故桂吉朝師の落語『軽業』の記録も併せて紹介しながら、上方寄席囃子の伝承について考察した。入場者数152名。

プログラム

講演Ⅰ	無形文化財「上方寄席下座音楽」の位置	飯島満
講演Ⅱ	上方落語と寄席囃子	荻田清（梅花女子大学）
講演Ⅲ	上方寄席囃子の人々—林家トミを中心に	豊田善敬（郷土史・芸能史研究家）
解説	寄席囃子について—落語『軽業』解説	石川裕美子（寄席囃子方）
上映	落語『軽業』より	桂吉朝

4 無形文化遺産保護分野での国際的研究交流

また無形文化遺産分野についての国際的研究交流として、中国成都市で行われた無形文化遺産保護条約臨時政府間会合に出席し、情報収集を実施した。

論文等掲載数 3件

- ・高桑いづみ「『過渡期の鼓胴その後』再び」『鉄仙』560 pp.6-7 07.9
- ・高桑いづみ「世阿弥自筆本の節付を考える—「難波梅」から「盛久」「江口」まで」『無形文化遺産研究報告』2 pp.286-265 08.3
- ・鎌倉恵子「〔聞き書き〕人形浄瑠璃文楽の裏方—囃子の世界を中心に— 吉田簀助師 藤舎秀左久師 望月太明吉氏に聞く」『無形文化遺産研究報告』2 pp. 212-194 08.3

発表件数 3件

- ・高桑いづみ「安国寺納入品・龍笛の歴史的な位置づけ」公開講演会 鞆の浦歴史民俗資料館 07.6.23
- ・飯島満「文楽一音の記録—」芸能史研究会第31回東京大会 国立能楽堂大講義室 07.12.1
- ・飯島満「無形文化財『上方寄席下座音楽』の位置」第2回無形文化遺産部公開学術講座 大阪文楽劇場小ホール 07.12.12

研究組織

○宮田繁幸、鎌倉恵子、高桑いづみ、飯島満、俵木悟、角美弥子、綿貫潤、佐竹悦子、埋忠美沙（以上、無形文化遺産部）、福岡裕子、森下愛子（以上、客員研究員）